資料紹介

滋賀県野洲郡祇王村宮山古墳発掘概報

金　関　恕
小野山　節

この調査は滋賀県文化財保護委員会の委嘱により梅原教授を調査主任として樋口講師発掘担当の下に行われたものである。

所在地　滋賀県野洲郡祇王村大字辻町小字阿部子俗称宮山。

調査期間　一九五三年二月十八日より三月五日まで。

調査者　樋口隆康、金関恕、小野山節

東海道本線野洲駅の東北、三上山から東に連なる丘陵が湖東平野と接するところに小篠原古墳群がある。この古墳群の一つと見られ、その東端に位置している宮山古墳は一九五二年九月十日国道八号線開鑿工事中に発見された。その際村人によつて土器数点が持ちだされたが、それらは辻町西福寺に保管されていた。

張りだした丘陵突端の頂部に設けられたこの古墳は、前記工事中ブルドーザーによつて、その封土の一部を削られたために原形を残していないが、円墳であつたことは疑いえない。

ほぼ西向きの横穴式石室は、全長九米、羨道の長さ四米、幅一・六米、高さ一・五米、玄室の幅二・二米、高さ二・八米で、片袖式である（第二図）。

作業開始当時、石室は厚さ約五〇糎の土砂で覆われ、玄室の奥壁に近い部分に二つの箱式石棺――北石棺、南石棺と呼ぶ――が、石室の主軸と平行に据えられており、南石棺の蓋石は、はずされて、石室南側壁に立てかけられていた。

石室内の土砂を除き、石室前面を整理した結果、この石室は間仕切石によつて羨道と玄室とが仕切られていること、壁は花崗岩を含む比較的大きな石の間に小石を挟んで、ほぼ垂直に積みあげられていること（第一図及び第三図）、六枚の石を横に並べて作られた天井は、羨道入口に近づくにつれて低くなつていること、羨道の床は、入口の部分が高く、間仕切石にいたるまで漸次低くなつており、玄室の床はその間仕切石の厚さだけ一段さがり、ほぼ水平な面の上に栗石が敷かれてゐること、石室入口の封土の断面が示すように、この石室が地山を掘りこんで構築され、それに封土が盛られていること（第四図）等を知りえたのである。

北石棺は、より奥壁に近く、北側壁に接している、棺の内法、長さ一一〇糎、幅三五糎、高さほゞ一五糎、部厚い花崗岩の板石を組みあわせて作られ、底には板石と栗石とが敷かれている。この東寄

りに微かに朱の痕跡が認められた。棺内遺物は二個のガラス製小玉のみ。この棺の蓋石にあたるものは明らかでない。南石棺はこれと六〇糎距つて置かれ、内法、長さ一五〇糎、幅三七糎、高さ二五糎、粘板岩系の比較的硬い、厚さほゞ一〇糎の板石を組みあわせて作られている。底は板石敷きで、棺内遺物は中央附近に見出した歩揺の足と考えられる針金をよじつたものだけであつた。この棺の蓋石と二枚の側石とは、棺と石室南側壁との間に置かれていた。これら二つの石棺はともに地山の上に直接据えられている。

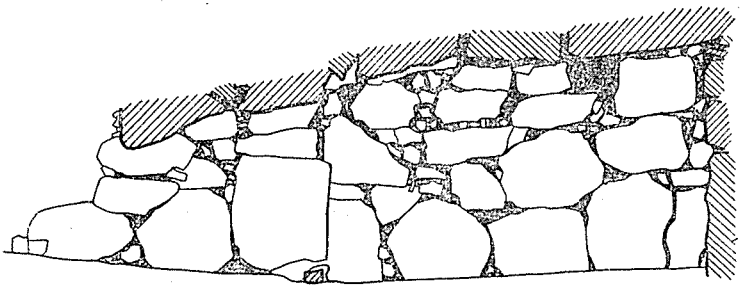
棺外については、二つの石棺の間から奥壁の下にかけて、多くの挂甲の小札が散乱し、それとゝもに二三の鉄鏃、鉄製鉸具、多数のガラス製小玉が見出された(第二図A)。なお、奥壁南側にあつた鉄製鉾先が、南石棺と石室南側壁との間で見出された鉄製鉾と向きを等しくしているという理由から、一組のものと見られるならば、この柄の長さは二米前後であることが知られる。二つの石棺の間には、ほかに二本の鉾先と一振の刀が不規則に置かれ、玄室中央附近からはさらに琥珀玉が一個見出された。

玄室中央より北西にあたる部分には相当広い範囲にわたつて腐蝕した木材の痕跡が見られ、これに接して二個の鍔があり、木片上に遺物はなかつたが、これは木棺であつたかも知れない(第二図B)。玄室入口の北側、すなわち石室の袖の入りこみ部(第二図C)から、須恵器の高杯三、瓶一、破片数点、玄室入口中央部から高杯一、間仕切石中央部から壺一、羨道北壁の下から台附壺一とこの壺の蓋と見られるもの、玄室入口の南側にあたる部分からは、鉄製兵庫鎖一、鞍一、鉄製雲珠三、等の馬具類と鉄鏃、「く」の字形をした長さ約二〇糎の青銅の管、砥石二個とが見出された(第二図D)。

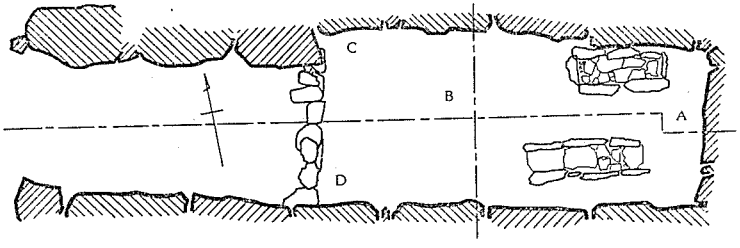
発掘した土器と、この古墳が発見された際持ちだされたものとを集計すると、須恵器は大型器台二、大型壺二、中型壺二、瓶二、高杯六、土師器は大型壺一、小型壺一が数えられる。古墳発見者の説明によつて、持ちだされた土器類がすべて石室の袖の入りこみ部に置かれていたことは判つたが、これらの正確な配列を知りえないのは惜しまれる。

なお、この調査によつて、棺内遺物、奥壁の下の遺物出土状態、流入土砂の状態等からもこの古墳が比較的古い時代に盗掘されていること、また、前述の玄室内で発見された木材が木棺であるとしても、土器類に形式の差が認められないから、さほど年代を距てて合葬されたとは考えられないことが判つた。

南石棺は、現在大津市産業文化館に運ばれて、復原されている。出土遺物はすべて京都大学考古学研究室で整理中である。

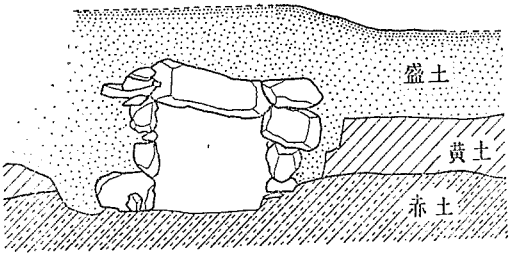


第一図　石室断面および石室北側壁

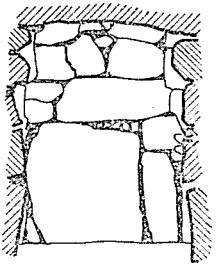


第二図　石　室　平　面

A桂甲小札
硝子玉等　　B木材片　　C土器類　　D馬具類



第四図　石　室　正　面



第三図

石室断面および奥壁